

道づくりだより

第12号

2009. 2 島根県道づくり調整会議



主要地方道 松江木次線バイパス（雲南市大東町）
平成20年9月27日開通式

CONTENTS

1. 主要地方道 松江木次線バイパスの開通について
2. 着々と工事が進む、浜田三隅道路！
3. 松江西部地区 農免農道整備事業 ~ 全線 2.4 kmの開通 ~
4. 経営体育成基盤整備事業 浜八島地区内農道の完成について
5. 朝酌川橋梁（仮称）の架設が始まります（松江第五大橋道路）

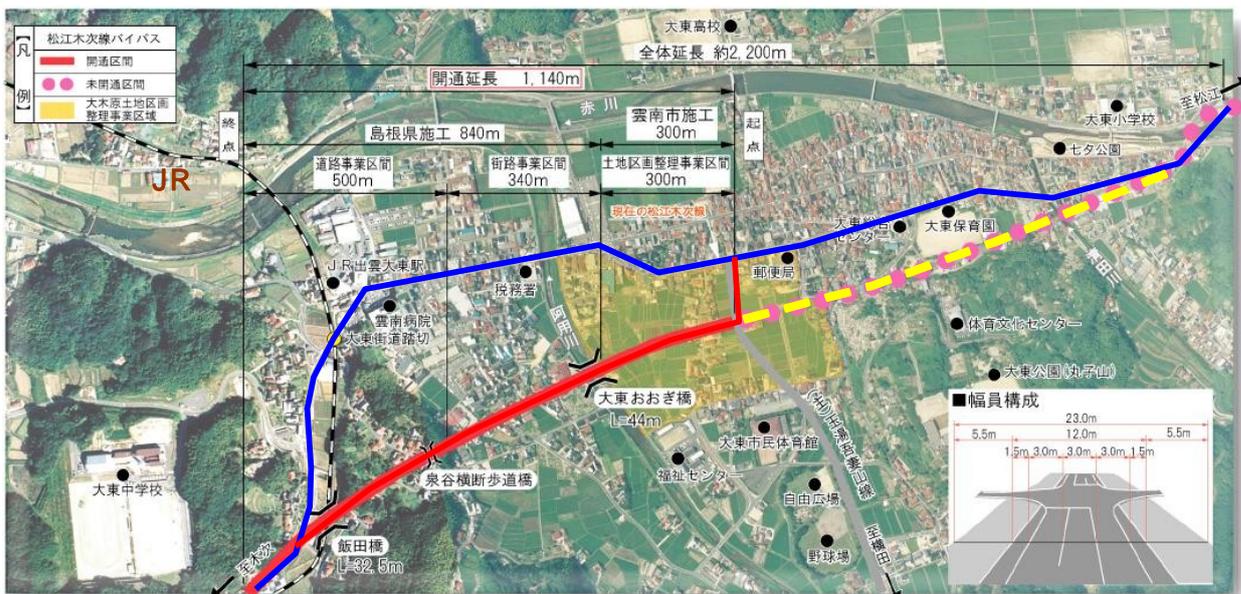
主要地方道 松江木次線バイパスの開通について

主要地方道松江木次線は、雲南市大東町の中心市街地と松江方面、雲南市木次町の国道54号を結ぶ幹線道路です。

この道路は、バス路線、小中学校の通学路を兼ね、周辺にJR駅、病院、中学校などの公的施設が集中しており、特に朝夕には踏切があることにより渋滞が発生し、通勤通学に支障をきたしていました。

このため、道路事業、都市計画街路事業（島根県）及び土地区画整理事業（雲南市）により、平成14年度から約7年の歳月をかけて整備を行い、平成20年9月にバイパスの約半分の区間が開通しました。

この開通により、交通混雑の解消と歩行者、自転車利用者の皆さまの安全確保が図られるとともに、新たなまちづくり、沿線の良好な環境形成等、地域の発展に大きく寄与するものと期待されます。



事業概要

事業名：(主) 松江木次線（飯田工区）道路事業
 (都) 新庄飯田線（飯田工区）都市計画街路事業
 大木原土地区画整理事業

事業期間：平成14年度～平成20年度

事業箇所：雲南市大東町

施工延長：L = 1,140 m

計画幅員：全幅員W = 23.0 m（車道W = 12.0 m、歩道W = 11.0 m）

主要構造物：大東おおぎ橋（L = 44.0 m）

飯田橋（JR跨線橋、L = 32.5 m）

泉谷横断歩道橋（L = 23.0 m）



完成状況



歩道橋から松江方面を望む



歩道から国道54号方面を望む

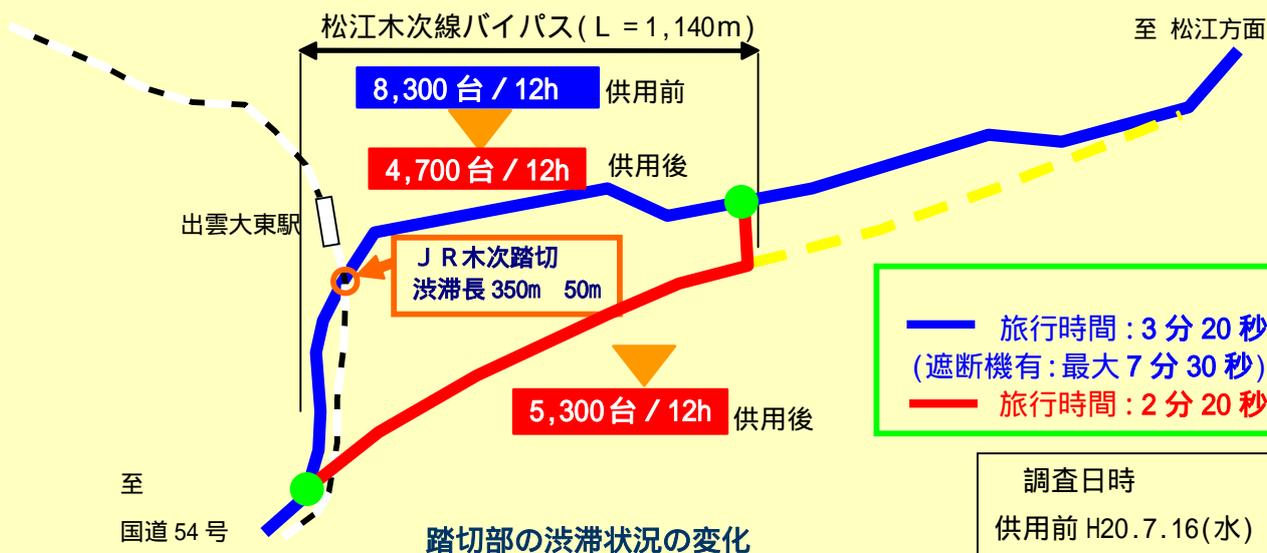
平成20年9月27日に行われた開通式

開通式では、テープカット、くす玉開披、通り初めなどが行われ、開通を祝いました。



道路開通による効果

バイパス開通後においてどのように交通量が変化するかを確認するために交通量調査を行いました。その結果、これまで踏切道を通っていた交通量(12時間当たり8,300台程度)の半分以上(5,300台程度、64%程度)がバイパスへ転換したことが分かりました。



踏切部の渋滞状況の変化





松江西部地区 農免農道整備事業

～ 全線2.4kmの開通 ～



事業の概要

【 松江西部地区

農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業 】

(通称：農免農道)

事業工期：H元～H20

総事業費：3,750百万円

受益面積：1,038ha

総延長：2,430m

(関連農道363mを含む)

幅員：全幅 11.0m (有効幅員 6.0m)



【 薦津橋付近の様子 】

松江西部地区 農免農道は、松江市比津町～古志町を結ぶ全線 2,430m の農道です。

県下有数の早場米地帯である松江市湖北地域と松江市街地を結ぶ幹線農道として、平成元年度より整備に着手し、20年の歳月を経て本年3月中旬に竣工する運びとなりました。

本地域では、農道整備のほかにも農業用水施設などの農業基盤整備が進められ、新たに農業生産法人が設立されるなど、農業経営の近代化が図られているところです。



【 浜佐田トンネルから佐陀川を望む 】

本農道は、農産物輸送の合理化や、農村地域における生活環境の改善を図ることのほか、原子力災害発生時における緊急避難路としての役割も担っており、今後一層地域に貢献していくものと期待しています。



【 新設された佐陀川大橋の様子 】

タイトル中の写真はH20年11月5日、本農道をコースに実施された松江工業高等専門学校ロードレースの様子。



「渡初め式」の様子

全線の工事竣工に先駆け、平成 20 年 10 月 25 日（土）に行われた渡初め式典の様子

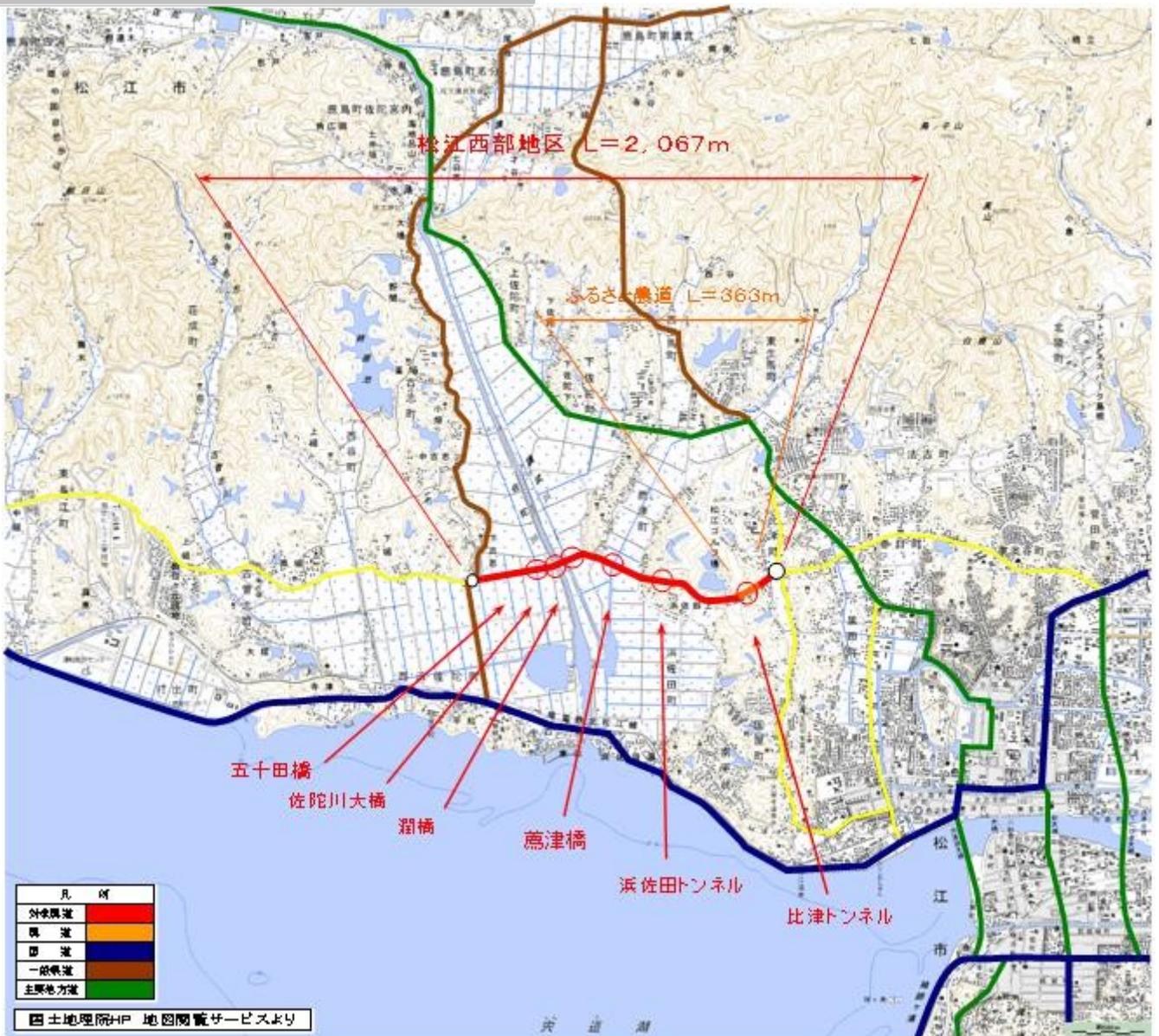
【 農免農道橋梁渡初め式 「潤橋、佐陀川大橋、五十田橋」 】



（ 主催：松江西部地区農免農道期成同盟会 ）



地区概要図



経営体育成基盤整備事業 浜八島地区内農道の完成について

浜八島地区は出雲市の北西部に位置しています。この地域の南部と西部は緩やかな丘陵地となっており、クロマツが植林されるとともに、ブドウの栽培が積極的に行われ、残る大部分は平坦な水田地帯になっています。近年、一部でハウスぶどうとの複合経営を行うなどの収益性の高い農業への転換を図る農家も出てきていますが、地区の大部分を占める水田においては、基盤整備水準が低いために、田んぼの汎用化が実現せず、水稲以外の転作作物の作付拡大ができない状況にありました。

また、地区内の農家戸々の経営面積が狭く、営農効率が低いため、営農組合による営農規模拡大を計画していましたが、農道が狭小なため、大型農業機械の使用が困難なことから営農の障害となっていました。

これらの問題を総合的に解決するため、道路幅員の拡幅および排水路の改修を行いました。

浜八島地区経営体育成基盤整備事業 事業概要

施工位置：出雲市浜町・八島町

事業工期：平成15年度～平成20年度

総事業費：620百万円

受益面積：55.8ha

【うち 農道整備】

1号農道

延長：510.8m

幅員：全幅5.0m(有効幅員4.0m)

2号農道

延長：764.9m

幅員：全幅5.0m(有効幅員4.0m)

3号農道

延長：805.0m

幅員：全幅4.0m(有効幅員3.0m)

4号農道

延長：875.0m

幅員：全幅4.0m(有効幅員3.0m)



状況写真 (1号農道)

【着手前】



【完成】

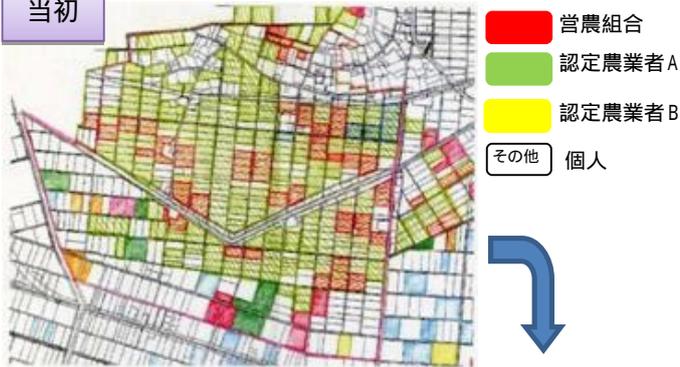


幅員 3 m の砂利舗装から幅員 5 m のアスファルト舗装へ

道路の拡幅により大型農業機械が使用可能となったことから、本事業を契機に農地利用調整が行われ、営農組合および認定農業者へ農地の集積が進んでいます。

浜八島地区の農地利用状況

当初

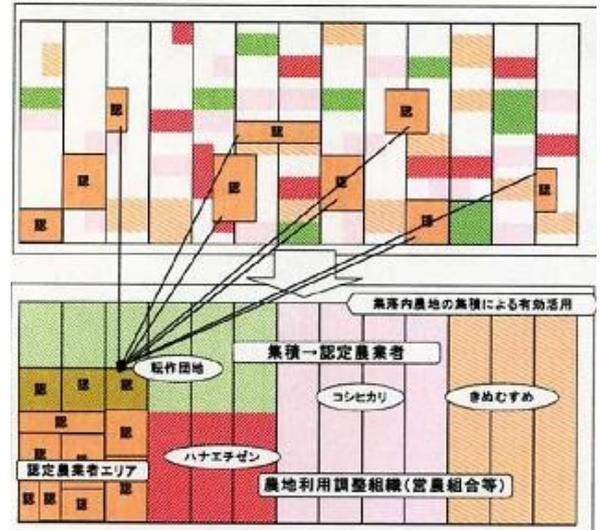


整備後



【農地利用調整のイメージ】

営農組合、認定農業者をエリアごとに集積し、作付作物の団地化による作業効率の大幅な向上を図る。



麦の転作状況



本事業で併せて行った排水路整備により、田んぼの汎用化が図られ、営農組合による麦の転作も積極的に行われています。

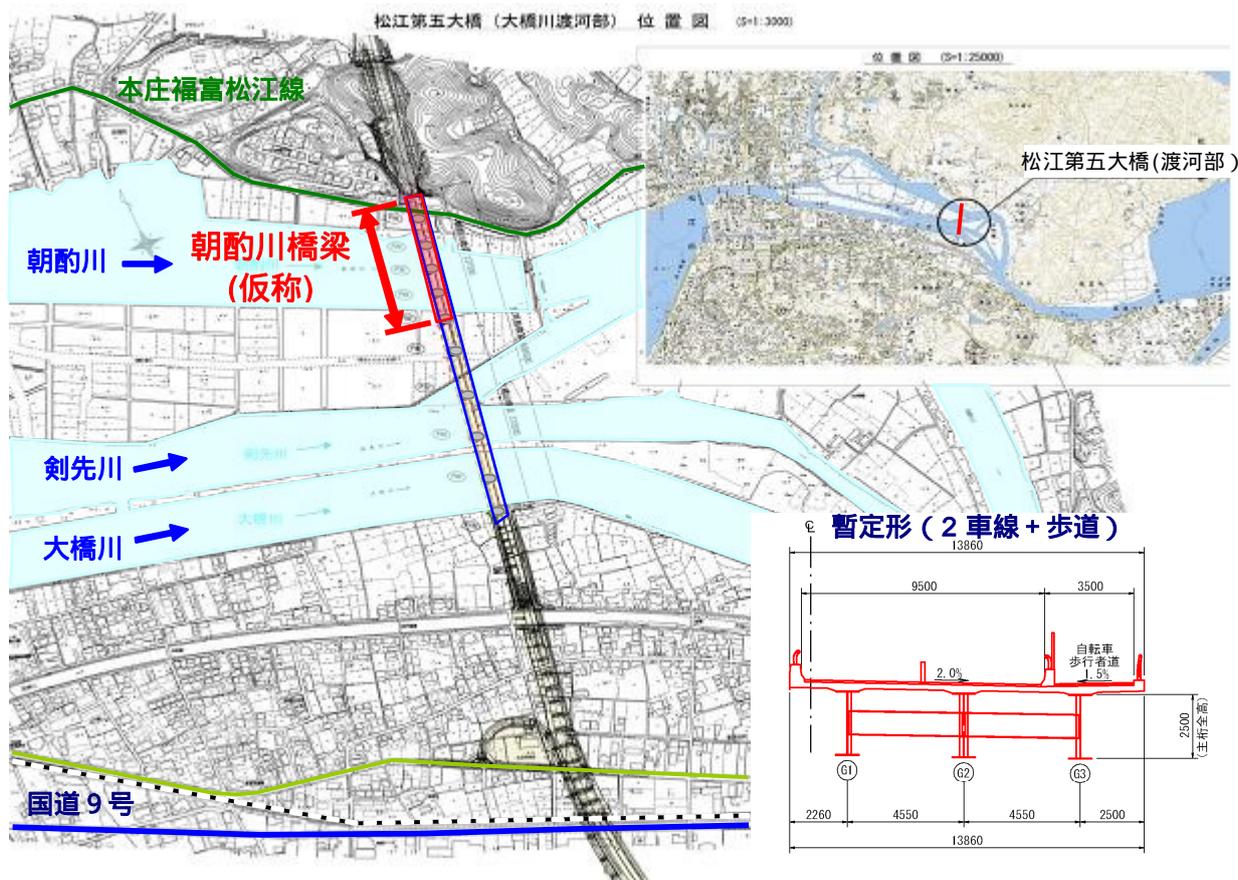
また、近隣の畜産農家とも連携し、堆肥を利用した有機農業による「エコ」商品作りも行い、循環型農業を目指していきます。

朝酌川橋梁（仮称）の架設がはじまります（松江第五大橋道路）

松江第五大橋道路は、松江市街地北東部の国道431号川津バイパスを起点に、国道9号松江道路間を南北につなぐ5.2kmの地域高規格道路です。

現在、平成24年度末の暫定2車線供用開始を目指し、工事のピークを迎えつつあります。

5.2kmのうち、橋の部分は約2.4kmあり、この度、朝酌川において、事業で最初となる橋（長さ約240m）の架設が始まります。架設は、朝酌川と剣先川の間にある中州で橋桁を組み立て、北側へ送り出す「手延式送出し工法」により行い、3月末から7月の期間を予定しています。



朝酌川橋梁(仮称)の工事状況 (H21.2.10撮影)

松江第五大橋道路については県のホームページをご覧ください

URL:http://www.pref.shimane.lg.jp/infra/road/kensetsu/daigo_oohashi/